

都市生活生協支援 第13号

1995.7.18
救援ニュース都市生活現地救援本部
西宮市今津山中町9-9
電話：0798-36-6679

特集

救援リサイクル始まる

まわる、まわる、くるくるまわる、人の和、物の輪、助け合いの輪

リサイクル生活用品の配達が始まりました

7/8(土)、仮設住宅の住民を主な対象とした、救援リサイクル用品の引き渡しが始まりました。これは、都市生活生協組合員のボランティア活動の一環として仮設住宅の戸別訪問を行ったところ、生活用品の欠乏を強く訴えられたという経緯が発端となっています。

まずは、組合員の各家庭や京阪神の友好生協に働きかけて不要になった生活用品を集めました。さらに、仮設住宅への救援青空市の開催時に生活用品の申し込みを受け付けました。その、需要と供給のバイブをつなぐ役割を現地救援本部が担いながら、一方で配達ボランティアを募集しました。

その結果として、第一回目のリサイクル用品の配達が先週行われたわけです。当日は友好生協の泉北生協、西部生協の配達ボランティアの方が遠方よりかけつけてくれました。また、都市生活の職員、ならびに現地救援本部のスタッフも加わり、多くの物品を多くの方々に届けることができました。特に、泉北、西部両生協の配達ボランティアの方々においては事前準備として、双方への配達日時の打ち合わせ、地図調べ、さらに当日は不慣れた土地での配達等、ご苦労があったことと思います。本当に御苦労さまでした。

さて、さて、第一回目の顛末^{てんまつ}やいかに……。ある仮設にお住まいの方に届けたテレビは映らないチャンネルのあることが発覚！(これは即刻回収し、2日後に再配達完了しました。)はたまた、届け先のお隣の方が突然に申し込みを希望されたり、あるいは希望提供物品に加えて、別の物品までくださる方がいたり……。と悲喜こもごも。きわめつけは、さる6月23日に六甲アイランドの

第6仮設で開催した救援青空市において、リサイクル用品の受け取り担当を買って出た初老の男性に再会したこと。(とても印象的な迫力ある人なので、現地救援本部ではこの方のことをたびたび思い出してはウワサしていたのでした。)この方は白髪頭を短く刈り込んだ、日に焼けた精悍な面構えのオッチャン! 誰かれかまわずに大きな声で話されます。現在は奥さんと二人住まい。可愛い奥さんのために「電器掃除機」をこっそり申告しておいたとのこと。(ところが奥さんは、「本当は、やっぱり使い慣れたホウキのほうががいい。結局、掃除するのは私なのに……」と少し困った様子でした。でも、これからは掃除機でオッチャンが掃除を手伝われるおつもりなのかも。)

結果としてこの方には、救援ニュースへの寄稿をお願いしました(今号2面に掲載)。一読させていただいて、過分な期待と感謝のお気持ちに身が引き締まる思いでした。また、今回、リサイクル生活用品の配達をしてくださった方々にも感想を寄せていただきました。

なお、生活用品の提供物品および配達ボランティアが不足しております。ご希望の方はどしどし御連絡ください。お待ちしております。(編集部)

♡現地救援本部♡
INFORMATION

7月20日(木)

仮設交流会

瓦林公園(西宮市)

7月27日(木)

仮設交流ミニ祭

橋公園(尼崎市)

詳しくは現地救援本部

TEL 0798-36-6679

まで

暑い夏と冷蔵庫

都市生活宝塚センター職員

河村克己さん

7月8日(土)、前日までの大雨が打って変わったように晴天、震災後私は初めてボランティアに参加しました。

内容は、組合員の皆さんから提供してもらった家庭電器製品を中心に、神戸市西区に届ける作業。まず、仮設住宅に届ける前に西宮センターと組合員さんのお宅に2件電気製品を回収に回り、それから仮設住宅に直行、道路状況もよく、予定通り1件目の仮設住宅に到着。

ここのお宅はおばあちゃんが一人で暮らしていて、以前使用していた冷蔵庫が電気をよく食うという事で、結構新しい型の冷蔵庫を提供。これからもっと暑くなるので、電気代が少しでも安くなれば……とうれしそうでした。

2件目と4件目は省略します。3件目も1件目と同じ冷蔵庫でしたが、こちらのお宅は大家族で現在使用している冷蔵庫の容量が100ℓ前後しかなく、冷蔵庫、冷凍品はこまめに買い物して入れていく形。それで大容量の3ドア350ℓを提供、これからは買い物もまとめ買いができるな……と喜んでもらいました。

最後に私も被災した一人ですが、私の住んでいるマンションは比較的新しく、一部損壊で食器類が3分の1割れた程度でした。仮設住宅に入居している方は、家はもちろん全半壊、家族が亡くなられた方も多く、失った物も多く、これから元の状態に復興していくのは大変です。一日でも早く元気を取り戻し、頑張っ行ってたらな〜と印象に残りました。

【仮設住宅からの便り】

生協とりサイクルに関して

生協の皆様、いつもご苦勞様です。心から感謝致しております。特にリサイクルの活用はグッドアイデアだったと見ています。そしてなによりもの救いは皆々様の罹災者、特に老人に対する接し方、其処には何のてらいもなく、ごく自然にそして心優しく接せられて居られるのを見て、私は感動致しました。

私は若き頃より、人と人との出会いを大切に……。此れをモットーとして生きてきました。人間は誰でも弱者です。此の世の中一人で生きて行こうと思っても必ず誰かと又は何かとたとへば自然の恩恵をも被って生きて行くものです。さればこそ此の度の様な大震災の被害者、特に老人には人の情が身にしみ嬉しく、又生きて行こうとする気力も湧くと言ふものです。其の意味に於いても皆々様のご活躍は何事

にもかへがたき尊いものと存じます。私は此の度の震災の被害者の一人として、八十歳を過ぎた老人が仮設住宅にて一人で死んで居たとか、一週間も十日も過ぎて発見されたり、仮設住宅への帰路がわからず道に迷って闇夜をさまよひ力尽きて死亡されたというようなニュースを聞く度、此の世の中の悲情を悟り行政の底辺の狭間の中で犬や猫の如く死んで行った人々の悲惨な姿に人の世の哀れさが身にしみ、晴澹たる気持にならざるを得ません。現在は使ひ捨て時代とか……。まだまだ我々老人から見れば使用できる物資が数多く捨てられて居ます。その中の一つでも再生し利用者に提供し喜んでもらへる……。何とすばらしき事ではありませんか……。

先日リサイクルの受付を手伝はせて頂いた時、入用な品物があっても買ひ

に行けない八十過ぎの一人暮らしの老婆、買ふ力はあっても不安な仮設住宅暮らしの中、先行きの生活を考へ辛抱している老人、……人々の真剣な眼差しで見つめられたとき、ひと事とは思へず皆様に品物が行き渡ればいいな、と心から感じます。今私の願い事はリサイクルの輪を大切に大きく育て、少しでも一つでも多くの罹災者の人々の手助けと成って頂きたいと心から願います。又微力で何の役にもたたず足手まといと成るかも知れませんが私でも手助けが出来すれば何時でも御連絡下さい。喜んで出席致します。皆々様のご健康を御祈りして居ります。

七月十二日

仮設住宅 六甲アイランド第五棟
T. H. より

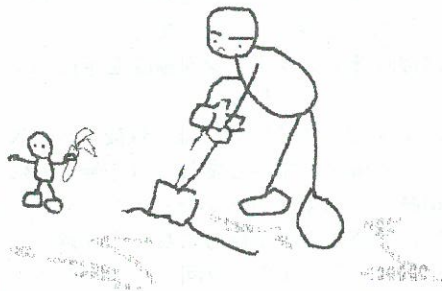
おばあちゃんの笑み

泉北生協地域活動運営部
大内淳次さん

我が家にはテレビが2台ある。ポータブルテレビがもう1台あったが、先日の地震で家を失った親戚のおじさんに差し上げた。ラジオは3台、ビデオも冷蔵庫も電子レンジも……。世の中便利になって、それらの無い生活なんて考えられない。

「こんなトースター、使いはるかなあ」（スライスした食パンを溝に入れて時間がくればポンと上がる例のトースター）と思いながらある仮設を訪ねたが、そのお宅では80歳になるというおばあちゃんが満面の笑みで迎えてくれ、「こりゃ、ええわ」と言ってジュースまでごちそうになった。

人間、日頃あって当然と思うものに対しては余り感謝しないもの。まだ使えるのに捨てようと思うものさえある。こんな世の中が続いていると、一番最後に捨てられるのは人間なんじゃないかとふと思った。



不安と喜び

大阪西部生協 高松さん

リサイクル品を仮設住宅等に住む被災者に届けるというので、少しでも役に立てればと引き受けましたが、時間の目途が立たないのと、相手先にスムーズに着けるか少々不安もありました。

届け先は神戸市西区ということなのでルートは中国道にしようと考えていましたが、西宮北ICまで渋滞がひどく、じりじりとしか進みませんでした。西区に入ってから道も空いて走りやすかったのですが、相手先が仮設

住宅だとももちろん地図にも載っていないし、地元の人でも仮設のある場所は複数知っていても、それが第2なのか第4なのかは普通知らないし、届け先の人も居住期間も浅く電話では説明しづらいというケースもありました。

皆さんにはとても喜んでもらえて、来た甲斐があったと実感しました。私と都市生活の角田専務が同じ人の家でかち合ったり、もっと効率よく届けられないかと思わせる場面もありました。それにしても仮設住宅の中には周囲に全く何も無いところもあり、そういう場所での青空市は被災者にとって本当に役立つはずだと感じられました。

